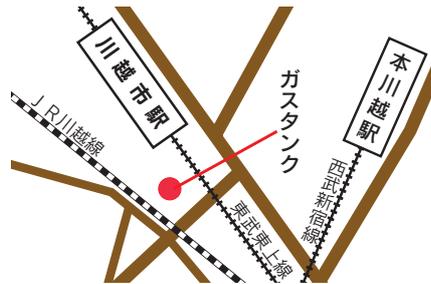


川越市駅の近くにある、大きなガスタンク。高さが二十九メートル、直径は二十七メートルあります。平均的な一軒の家庭で使うガスの量で換算すると、約百二十一年分が入っています。ガスタンクの表面には、曲面を上手に使い、蔵造りの切り妻屋根の破風と時の鐘、そして市の鳥の雁が三羽飛んでいる様子が描かれています。平成十四年にガスタンクの定期検査に合わせて、現在の絵に描き換えられました。

ガスタンクに描かれた絵は、駅の近くで川越のシンボルを大きく紹介しています。



上：小江戸川越のイメージ伝わってきます

左：JR川越線と東武東上線の間に2つあるガスタンクのうち、大きい方の東南側に絵が描かれています



川越ならではの礼儀作法など

小江戸のならわし・その三 文字をいとおしむ



江戸時代以来、教育熱心であった城下町・川越の人々は、書かれた文字に対して極端なほど敬意を払い大切にしました。例えば、読みかけの新聞が広げられた上をまたいだり踏んだりすると、きつく小言を言われました。まして、知識の源である書籍のたぐいはなおさらで、必ず両手で受け渡し、ていねいな方は押し頂いてから本を開いたものでした。今日のように、読んでいる途中で本を開いたまま伏せるようなことはしませんでした。書かれた内容以上に、遠い歴史を持つ自分たちの文字に、言い知れぬ文化の神々しさを感じていたのでしょうか。

*文化財保護協会・宮岡正一郎さんから伺った話を、広報室がまとめました。

表紙

「平成邦楽一座」公開収録の様子

5月24日、市民会館でNHK衛星第2テレビ「平成邦楽一座」の公開収録が行われました。収録の中で、南田島囃子連足踊り保存会の皆さんにより「南田島の足踊り」が、披露されました。また、タレントの山田邦子さんなどにより、三味線・尺八など邦楽の魅力が楽しく紹介されました。

放送は、7月22日(日)、午後6時から6時45分に予定されています。



川越城築城550年

川越城が築城されて550年目のことし、さまざまな記念イベントが行われます